

## 都会ではない、田舎でもない、自然と共存する日本最北の街、稚内



### 謝 佳琪 (シャ カキ)

台湾台北市出身。台湾中興大学院でMBAを取得。台湾をバイクで一周しながら、各地の民泊に泊まるくらいの旅行好き。初めての北海道旅行で北海道の魅力に心を奪われ、日本語の勉強を始める。1年後にはワーキングホリデーで来日し、現在までを日本で過ごす。

#### 【私と稚内】

私が初めて稚内と出会ったのは、2017年のことです。稚内は台湾とは異なり、夏でも涼しい気候と濃度の濃い青い空、そして水平線に映る朝日と夕日、道路では野生の鹿たちが横断しているという信じられない光景でした。なにもかもが新鮮で、刺激的で、私はすぐに稚内の魅力の虜になりました。

当時はワーキングホリデーの最中で旅行に訪れていただけですが、いつかまたこの場所に戻ってきたいと思っていました。

#### 【都会と仕事】

ワーキングホリデーが終わった後は、技術・人文知識・国際業務のビザを取得して東京の観光ホテルで働いていました。満員電車で通勤しては帰る、そんな生活を続けていたとき、私はなぜ台湾でも出来る仕事を日本でしているのだろうか、ふと我に返りました。そんな時にこの稚内の地域おこし協力隊の求人を見つけたのです。「絶対ここに行きたい」そんな気持ちで、面接に挑んだのを覚えています。



台湾人・北海道最北端生活  
@taiwanwakkana / フォトページ

Facebook

Facebook「台湾人・北海道最北端生活」  
<https://www.facebook.com/taiwanwakkana/>

#### 【稚内と地域おこし協力隊】

採用になった私の一番の役割は「台湾に稚内のPRをしに行く際に、同行し通訳をすること」でした。しかし、同年に流行り始めた新型コロナウイルス感染症の蔓延により一番大きな仕事が無くなってしまったのです。とりあえずは…と始まったのは観光案内所での案内業務でしたが、これも新型コロナウイルス感染症の影響で、海外のお客様はほぼ0に近く、あまり活躍する機会がありませんでした。勤めて約1か月後の10月下旬、「日本に来られない台湾人に向けて、稚内の魅力を住んでいる台湾人の目線で発信してみよう」とFacebookのページが出来上がりました。私がすごく幸運だったことは、職場の方々が、「私のやりたいことに対して同意をしてくれること」です。

#### 【観光資源と発信方法】

稚内には観光資源が豊富にあります。

- ・ 日本最北というパワーワード
- ・ 住宅地内に徘徊する野生動物（鹿や狐<sup>きつね</sup>）
- ・ 海、海産品（特にホタテ）

これだけ観光資源があるにもかかわらず、観光に訪れる人達は行き先に悩みます。そして、その原因は2つあると思います。

- 1 万人向けのモデルコースがないこと
- 2 モデルコースを移動するための手段がないこと

他の観光地を参考になると「○時間あるならこの順路で回るのがオススメ」といったモデルコースが存在します。これが稚内になると万人向けのコースがありません。また、行きたい目的地があってもそこまで行くための交通手段が、レンタカーやタクシーしかないので、海外からの旅行者にとってはかなりハードルが

高いのが事実です。そのため私は、徒歩や自転車でも楽しめる街中のスポットなど、日常的な風景を投稿に取り入れ、旅行者に新たな発見をしてもらい、訪れてほしいと考えています。

### 【実績と継続】

私が考案した企画の1つに「ホタテ貝殻絵付け体験」があります。ホタテは稚内の観光資源の1つですが、同時にホタテの貝殻は産業廃棄物でもあり、処理に苦慮しています。これを旅行者にお土産として持って帰ってもらうことと、今ある「白い道」との組み合わせにより、旅行者に「稚内はホタテの街」という印象付けと思い出に、そして稚内地域の問題解決という双方に貢献できればと考えています。

企画当初は夏季のみ実施の予定でしたが、利用してくださる方が一定数いたため、稚内駅のキタカラで通年実施しています。悪天候で船や電車が運休した場合などにも「1つの体験」としてぜひ活用してほしいなと思います。

### 【期待と展望】

私の地域おこし協力隊の活動を知った、地元の新聞社や北海道新聞、読売新聞、Facebookを通じて香港や台湾のメディアから寄稿依頼や投稿内容の共有依頼などがありました。私の取り組みを通して、観光だけでなく「北海道道北の魅力の再発見」や、「地方に住むことへの憧れ」などを持ってもらえたらいいなと思っています。

地域おこし協力隊の任期は3年です。もう1年半が経過し、残り1年半で私に何ができるのか、任期が終わった後も稚内に残ることができるのか、外国人である私には大きな問題があります。せっかく私を採用していただいたので、残りの1日1日を大切にしながら、今まで支えてくれたFacebookのファンたちや職場の

同僚や稚内の友人達と、稚内を盛り上げるために過ごしていきたいと思います。

### 【地方移住と現実】

「都会のストレスフルな生活から地方に移住することによって、ストレスが軽減される」というイメージがありますが、やはりこれは半分正解で半分不正解だと思います。

地方移住することによる一番の良いポイントは、通勤でのストレスが減ることです。私は職員の方に用意していただいた住宅に住んでいますが、職場まで徒歩5分という好立地で生活できています。スーパーやドラッグストアなども徒歩圏内で、車を持たない私を考慮してくださっていて、本当にいい条件だと思います。他にも実家の台北や、以前に勤めていた東京では見ることが出来なかった「野生動物との遭遇」は感動ものです。無機質な都会の建物から離れ、地方の自然の中で生活することはやはり「癒される」という一言に尽きると思います。

気になった点といえば、やはり仕事です。年齢的に若い人が好むような職は少なく、生活のインフラに関わる仕事が大半です。地域おこし協力隊で入ってきても、そのまま移住できるかどうかは本人の器量次第だと思います。独立をしたり、今流行りのテレワークをしたりで活躍できる人にはとてもいい環境だと思います。地元の方々から仕事の依頼を受けて生活していくという方もいます。

地域おこし協力隊でその地域の一員になるとわかった日から、「3年後の自分は何をしよう」というのは考えておいた方がいいと思いました。メリットや気になる点はあるのですが、地域おこし協力隊は「行く側」と「受け入れる側」の双方の刺激になるととてもいい制度だと思います。



「ホタテ貝殻絵付け体験」に参加する親子



稚内駅にある「ホタテ貝殻絵付け体験」のPRコーナー



住宅地を散歩する鹿